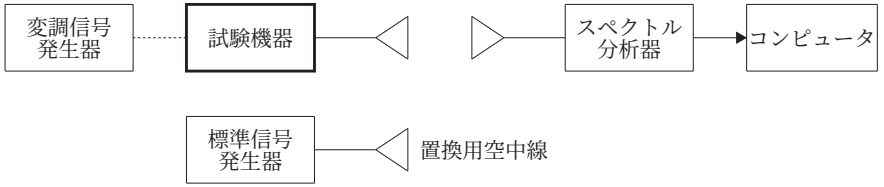
⑵　占有周波数帯幅が最大になる符号の設定が不可能であって、バーストごとに変調符号が異なる場合は、スペクトル分析器を２のマックスホールド状態のまま10回以上（波形が変動しなくなるまで）の送信を行うことにより、占有周波数帯幅が最大になる符号に代えることができる。

⑶　占有周波数帯幅が最大になる符号の設定が不可能であって、通常の変調符号での測定値が15kHz以下であって周波数偏移等を制御しない場合は、通常の変調符号を占有周波数帯幅が最大になる符号に代えることができる。

十三　スプリアス発射又は不要発射の強度（アンテナ一体型）

１　測定系統図



２　測定器の条件

⑴　スプリアス領域における不要発射の強度

ア　搬送波周波数±１MHzを除く不要発射探索時のスペクトル分析器を次のように設定する。

掃引周波数幅	９kHzから搬送波周波数の10倍以上までの周波数 ただし、搬送波周波数±１MHzを除く。
分解能帯域幅	参照帯域幅
ビデオ帯域幅	分解能帯域幅と同程度
入力レベル	最大のダイナミックレンジとなる値
掃引時間	測定精度が保証される最小時間
掃引モード	単掃引
検波モード	ポジティブピーク

イ　搬送波又は搬送波周波数±１MHzを除く不要発射測定時のスペクトル分析器を次のように設定する。

中心周波数	搬送波又は不要発射周波数（探索された周波数）
掃引周波数幅	０Hz
分解能帯域幅	参照帯域幅
ビデオ帯域幅	分解能帯域幅と同程度
入力レベル	最大のダイナミックレンジとなる値
掃引時間	測定精度が保証される最小時間
掃引モード	単掃引
検波モード	サンプル

ウ　搬送波周波数±１MHzの不要発射探索時のスペクトル分析器を次のように設定する。

掃引周波数幅	搬送波周波数±１MHz ただし、搬送波周波数±62.5kHzを除く。
分解能帯域幅	３kHz
ビデオ帯域幅	分解能帯域幅と同程度
掃引時間	測定精度が保証される最小時間
入力レベル	最大のダイナミックレンジとなる値
掃引モード	単掃引
検波モード	ポジティブピーク

エ　搬送波周波数±１MHzの不要発射振幅測定時のスペクトル分析器を次のように設定する。

中心周波数	不要発射周波数（探索された周波数） 探索された周波数が帯域外領域とスプリアス領域の境界近傍（分解能帯域幅の影響が無視できない範囲）の場合は、中心周波数を境界周波数から参照帯域幅の１／２だけ離調させた周波数とする。 探索された周波数が搬送波周波数±112.5kHz以下のときは、中心周波数を搬送波周波数±112.5kHzとする。
掃引周波数幅	100kHz
分解能帯域幅	３kHz
ビデオ帯域幅	分解能帯域幅と同程度
掃引時間	測定精度が保証される最小時間
入力レベル	最大のダイナミックレンジとなる値
掃引モード	単掃引
検波モード	ポジティブピーク

⑵　帯域外領域におけるスプリアス発射の強度

スプリアス探索時のスペクトル分析器を次のように設定する。

掃引周波数幅	搬送波周波数±62.5kHz ただし、搬送波周波数±（占有周波数帯幅の許容値／２）を除く。
分解能帯域幅	30Hz以上１kHz以下
ビデオ帯域幅	分解能帯域幅と同程度
掃引時間	測定精度が保証される最小時間
入力レベル	最大のダイナミックレンジとなる値
掃引モード	単掃引
検波モード	ポジティブピーク

３　試験機器の状態

⑴　試験周波数に設定して、連続送信状態にする。

⑵　連続送信状態にできない場合は、継続的バースト送信状態とする。

⑶　変調符号は、標準符号化試験信号により変調する。ただし、標準符号化試験信号に設定できない場合は、通常運用状態に用いる変調符号とする。

⑷　帯域外領域のスプリアス測定時には、無変調状態とする。

４　測定操作手順

⑴　搬送波周波数±１MHzを除く不要発射の探索

ア　測定空中線を垂直偏波とし、試験機器及び測定用空中線の高さと方向を対向させる。

イ　スペクトル分析器を２⑴アのように設定して、不要発射を探索して、レベル測定が必要なスペクトルを選択し、周波数掃引幅を狭くして不要発射周波数を測定する。

⑵　搬送波周波数±１MHzを除く不要発射のレベル測定

⑴で探索した不要発射の周波数（複数ある場合はそれぞれ）について、次の操作により最大指示値を測定する。

ア　スペクトル分析器を２⑵のように設定する。

イ　試験機器を回転させて不要発射の受信電力が最大となる方向に調整する。

ウ　測定用空中線の地上高を１mから４m程度までの間で変化させるとともに測定用空中線の向きを調整して、不要発射の受信電力が最大となる位置を探し、この点のスペクトル分析器の指示値を「E」とする。ただし、不要発射がバースト波の場合は、バースト内の平均値を「E」とする。

エ　不要発射の電力（等価等方輻射電力dBm）を次式により算出する。

$$\text{不要発射電力} = P_{SA} - G_{SA} + L_{FA} - 13.3 + 20\log F$$

P_{SA}　：スペクトル分析器の測定値（dBm）

G_{SA}　：測定用空中線の絶対利得（dBi）

L_{FA}　：スペクトル分析器と測定用空中線間の給電線の損失（dB）

F　：不要発射周波数（MHz）